

君津地域水稲情報 「あぜみち第5報」

平成 27 年 8 月 3 日 君津農業事務所 改良普及課
 電 話 0438-23-0299 FAX 0438-23-6698
 ホームページ <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-kimitsu/>

★地域や品種、移植時期により生育進度は異なる

★ほ場ごとに適期の水管理と収穫を行いましょ！

1 君津地域の生育概況

4月20日植えの各品種の成熟期は、「ふさおとめ」が8月6日頃から、「ふさこがね」は8月12日頃から、「コシヒカリ」は8月19日頃からと予測されます。今年は地域や品種、移植時期による生育進度の差が見られることから、ほ場ごとに適期の作業を行うことが重要です。

7月30日に気象庁から発表された1か月予報によると、7月11日頃から続いている高温傾向が8月14日頃まで続く見込みですので、登熟が早まる可能性があります。

2 県作柄調査ほ等の調査結果

品種	年	田植え日	出穂期
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	27	4/16	7/8
	平年	4/16	7/12
	平年差	±0	-4
ふさこがね (君津市)	27	4/21	7/9
	平年	4/19	7/12
	平年差	+2	-3
コシヒカリ (君津市)	27	4/22	7/16
	平年	4/20	7/16
	平年差	+2	±0
コシヒカリ (一発肥料) (富津市)	27	4/19	7/12
	平年	4/21	7/17
	平年差	-2	-5
コシヒカリ (木更津市)	27	5/8	7/27
	昨年	4/27	7/19
コシヒカリ (一発肥料) (君津市)	27	5/8	7/28
	昨年	5/5	7/26

※ 「出穂期」とは、ほ場の40~50%の穂が「出穂」したとき、「出穂」とは穂先が茎から少しでも顔を出したときです。

-郵便で配信している方へお願い-

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたはFAXに切り替えを進めています。

電子メール・FAXをお使いの方は、下記までご連絡ください。

連絡先 森田 y.mrt40@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299 (電話)

3 これからの管理のポイント

① 刈り取りは適期に行いましょう。

収穫は登熟状況を十分に観察し、帯緑色籾歩合 15%の時にいきましょう。(注：帯緑色籾歩合は主稈と思われる太い茎の穂を選び、不稈籾を除いて数えます。図を参照)

各品種の収穫期の目安は、平年並みの天候の場合、出穂期から、「ふさおとめ」で 33 日前後、「ふさこがね」で 37 日前後、「コシヒカリ」で 38 日前後です。

なお、今年は、地域や品種による生育進度の差が見られ、また 7 月中旬以降は気温が高く推移しており、登熟の進みが早くなる可能性があります。

早刈りでは青未熟粒、刈り遅れでは胴割米等が発生し、品質・食味の低下につながりますので、注意してください。

図 1 帯緑色籾の見分け方

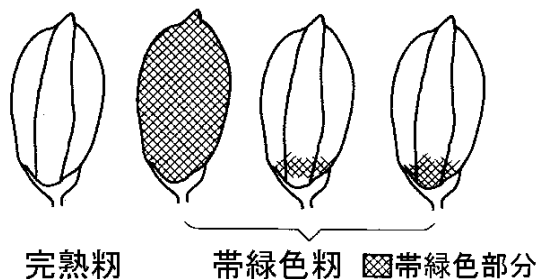


表 1 品種別成熟期の予測 (目安の日数は平年並みの天候の場合)

品種	植付時期	成熟期予測
ふさおとめ	4月 20日	8月 6日
ふさこがね	4月 20日	8月 12日
コシヒカリ	4月 20日	8月 19日
	5月 1日	8月 31日

② 来年に向けた水稻の難防除雑草対策

「オモダカ」「クログワイ」等の多年生雑草は、稲刈り後にも生育を続け、地中で来年の発生源となる塊茎を形成します。そのため、稲の生育期間中における除草剤の体系処理だけでは、十分な防除が難しくなっています。これら難防除雑草の対策としては、水稻栽培期間中の除草剤に頼るだけでなく、秋冬期の耕種的防除と薬剤防除を組み合わせて発生密度を減らすことが重要です。今作で雑草に悩まされた方は、来年に向けてしっかりと対策を行いましょう！

・秋冬期の耕種的防除 (9月中)

稲刈り直後からロータリー耕を行い、雑草の地上部を埋没し、茎や根を切断することで塊茎の形成量を抑えることができます。また、多年生雑草の塊茎は低温や乾燥に弱いので、良く乾燥する田では冬期 (1~2月) の耕うんにより塊茎を掘り出し、地表面にさらすことで、塊茎量を減らす効果があります。

・秋冬期の薬剤防除 (10月上旬頃)

稲刈り後に再生してきた一年生雑草・多年生雑草は、非選択性の茎葉処理剤 (ラウンドアップマックスロード等) の散布により防除が可能です。地上部を枯らすとともに、浸透移行性があるため、地下部の塊茎等にも効果が期待できます。また、水田にほふく茎を伸ばして畦畔から侵入するイネ科雑草 (キシウスズメノヒエ等) の防除にも効果的です。ただし、低温になり、雑草の生育が停滞する頃になると浸透移行の効果が落ちるので散布時期に注意しましょう。